

令和4年度 日本史Bシラバス (地理歴史)

学番56 新潟県立八海高等学校

教科(科目)	地理歴史 (日本史B)	単位数	4	学年 (コース)	2 学年 (普通コース)
使用教科書	山川出版社『詳説日本史 改訂版』				
副教材等	帝国書院『図説 日本史通覧』 浜島書店『要点整理 ゼミナール日本史』				

1 学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うため、以下のことに重点を置く。

- ① 現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考察させる。
- ② 歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第Ⅰ部 原始・古代	教科書 ノート 図表・資料集 『ゼミナール日本史』	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、古墳文化、天平文化に着目して、古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる。 ・東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移について考察させる。 	32	定期考査 課題等の提出 授業への取組
5	第1章 日本文化のあけぼの				
6	第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化				
7	第Ⅱ部 中世		<ul style="list-style-type: none"> ・武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組みについて考察させる。 ・日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開について考察させる。 	20	
8	第4章 中世社会の成立				
9	第5章 武家社会の成長				
10	第Ⅲ部 近世		<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる。 ・幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察させる。 	25	
11	第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺				
12	第Ⅳ部 近代・現代				
1	第9章 近代国家の成立		<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕府の滅亡、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、我が国の近代化の推進過程について考察させる。 ・国際社会の動向、アジア諸国との関係に着目して、戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて考察させる。 ・現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識させる。 	51	
2	第10章 二つの世界大戦とアジア				
3	第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本				

計128時間 (55分授業)

4 課題・提出物等

- ・作業プリントや課題についてまとめたレポート、授業ノートなどを提出する。
- ・プリント作業などを通じて、授業の理解状況を把握する。

5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に探究するとともに、日本人としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	日本の歴史の展開を、日本史的視野だけでなく地理的・世界史的視野に立って考察・解釈し、適切に表現できる。	諸資料 (または史料) を読みとり、有用な情報を選択・活用することができる。	日本の歴史の展開についての基礎的・基本的知識を確実に習得し、世界史的・地理的視野に立って総合的に理解することができる。

以上の観点をふまえ、①授業の取組 (出席、授業態度、学習活動への参加状況など)、②ノート提出やプリント・課題提出など提出物の内容、③定期考査などから総合的に評価する。

6 担当者からの一言

日本史の授業では、多くの用語 (人名や事件名等) が出てきます。その一つ一つをバラバラにみていると「全体」が見えなくなります。それぞれの出来事の関連を意識し、「全体」を一つの「流れ」として見ていくようにして学習を進めていく必要があります。はじめは苦労するかもしれませんが、慣れれば難しいことはありません。一緒に頑張っていきましょう。